みんなで育む太子の子「各学校園の取り組み紹介」

町立幼稚園：「思いやりと協力心を育む散歩遠足」

全園児で散歩遠足を実施。子ども同士の優しさや協力を引き出す取り組みをおこないました。公園までの道のり、公園での遊び、昼食時と、子どもたちの思いやりや助け合う姿が見られました。私たち教職員は子どもたちの行動を見つめ、その良さをすぐに伝え、意識づけることを心掛けました。幼稚園では、これらの取り組みを「非認知能力の伸長」につなげ、職員一人ひとりが子ども理解を深め、自己研鑽にも努めています。

磯長小学校：「スポーツテストで非認知能力も伸ばす」

1学期にスポーツテストを実施しました。通常5，6年生のみの活動ですが、今年は大阪府の取り組みに伴い3，4年生も参加しました。テストの前には、種目ごとのコツを学ぶための動画を見て予習しました。児童は自己記録の更新をめざして熱心に取り組みました。また、ミニスポーツテストも行われ、全学年が参加。挑戦心と持続力を養う機会となりました。

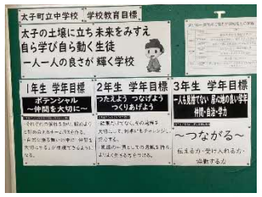
山田小学校：「ドイツ語で伝えてみよう～言葉の壁をこえて～」

山田小では、7月、大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館からイェーレ総領事が来校され、5・6年生児童を対象に、ドイツの魅力について講演をしていただきました。講演後、児童が領事にドイツ語で質問し、領事に答えていただく機会がありました。練習してきたドイツ語が、領事に通じた時の児童のにこやかな表情は、とても印象的でした。

未習の言語を使ってコミュニケーションにチャレンジした子どもたち、「挑む力」・「伝える力」・「受け入れる力」が育まれていることを期待しています。

町立中学校：「未来を見据えた教育への挑戦」

令和5年度、中学校では「非認知能力の伸長」を教育活動の中心とし、具体的な目標と取り組みを全教職員で共有しました。学年ごとの目標設定と伝統行事を通じた力の育成に注力し、生徒の未来を見据えた授業づくりを推進。11月17日には、全校学校公開を実施しました。学校全体の意識を高めるため、掲示板を活用して情報を共有しています。従来の活動が徐々に復活し、生徒一人ひとりの輝く学校作りをめざしています。



太子町の幼小中一貫教育の取り組みをHPで発信中

二次元コードをスマホ・カメラで読み取ることで確認できます▸

「広報たいし」では日々の学校園の取り組みを発信！

太子町の学校で、子どもの成長を支え・関わりたい！
講師募集状況を掲載中！▶▶▶

お問い合わせ：太子町教育委員会教育総務課　0721（98）5533

太子町の幼小中一貫教育

令和4年度から太子町は幼小中一貫教育を始めました

太子町では、子どもたちの「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育み、個々の可能性を最大限に伸ばすため、町立幼稚園から中学校までの学びを非認知能力というキーワードで連続的に結びつけた幼小中一貫教育を進めています。

変化が激しく、多様な時代を切り開く基盤となる力＝非認知能力がキーワード

非認知能力を引き出し、一人ひとりの可能性を広げる ＝太子町の幼小中一貫教育＝

太子町で育む7つの非認知能力

自分と向き合う系の力

▷あきらめない力 ： 粘り強く取り組む力

▷自分を調整する力:
思い通りいかないことがあっても気持ちを切り替える力

他者とつながる系の力

▷協働する力 ：
他者と一緒に目標達成のために協力する力

▷受け入れる力
相手の立場を理解し、相手のことを認める力

▷伝える力
自分の思いを発信する力

自分を高める系の力

▷目標・夢を持つ力 ： なりたい自分・理想を描く力

▷挑む力 ： 何事も、まずやってみる力

”子どもの可能性を最大限に:
太子町における非認知能力の視点からの幼小中一貫教育”

太子町では、子どもたちの「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育み、個々の可能性を最大限に伸ばすため、幼稚園から中学校までの学びと成長を連続的に結びつけた幼小中一貫教育を進めています。

幼小中一貫教育を推進するうえで、今後加速する社会の変化に対応する力として「非認知能力」に注目しています。「非認知能力」をテーマとした取り組みは、本町における教育活動の中心に位置づけております。私たちは、子どもたちの可能性を最大限に引き出すため、確かな学力だけでなく、豊かな心と健やかな体を育みながら、「非認知能力」をバックボーンとして教育を実践します。

幼小中一貫教育で育む子ども

「めざす子ども像」

**「幼小中のつながりをもとに
豊かな人生とより良い社会を主体的につくるため
自ら考え、うごき、相手を大切にできる人」**

令和4年8月に開催した研修で太子町立幼小中学校園のすべての先生が、太子の子どもの良いところ・課題・義務教育でつけたい力（教師のねがい）、そしてこれまでの教育実践で大切にされてきた「非認知能力」について考えました。それを分析し、幼小中一貫教育で育む「子ども像」「太子町で育む主な非認知能力」としてまとめました。

幼小中の先生みんなで考えた 学校園で大切にしたい共通の視点

太子町立学校園の全教職員で、子どもの権利の観点から「太子の子ども」と関わる大人が学校園で大切にしたい共通の視点について考えました。

子どもを主語に

子どもが安心して自分を表現できる
子どもが成長を実感できる
子どもが自ら学ぶ

子どもを主語にして考えると大人は何ができるのか？

子どもを主語にして考えるとは、例えば「子どもが安心して自分を表現できる」ために、大人の意見の押し付けではなく「子どもとの対話を大切にし子どもの気持ち・意見を尊重する」。「子どもが自身の成長を実感できる」ために、大人は子どもができそうなことは子どもに任せて「子どもの成長を支える」。「子どもが自ら学ぶ」ために、大人は一方的に教え込むのではなく「子どもの学びたいと思うきっかけを作る」。

このように「子どもが安心して自分を表現し、成長を実感でき、広い視野で社会と接し、自分の強みを見つけ、自ら学びたいというきっかけを作るために、町立学校園の大人が子どもと関わる際の共通の合言葉を「子どもを主語に」としました。

太子町立学校園は「子どもを主語にして」子どもと接し、非認知能力を引き出し、一人ひとりの可能性を広げる幼小中一貫教育に取り組みます。

太子町幼小中一貫で育む人像

どうして非認知能力なのか？

「非認知能力」は自己肯定感や感情調整など、学習や人間関係の形成に重要な力です。これらの力はテストなどによって客観的に測定することができません。これを木に例えると見えない「根」の部分に相当します。根が強固でなければ、木は成長できません。同様に、非認知能力という土台がしっかりしていなければ、具体的な学習の成果を獲得、維持することが難しくなります。非認知能力は、客観的に数値化できないが故に大切に育てるべきスキルであり、太子町の教育でこれまでも大切にしてきた部分でもあります。